

2025・2026

12・1

No.450

埼玉経協

SAITAMA Employers' Association

ニュース

[CONTENTS]

- 02 **新春所感** 会長 橋元 健
- 03 令和7年度 第2回理事会・幹事会、講演会
- 04 **第7回トップセミナー** 「失敗の本質」
- 04 **第4回特別セミナー** 「生産性向上のための生成 AI 実践活用」
- 05 「採用支援セミナー」
- 05 令和7年度県立学校等管理職候補者名簿登載者研修会 講演会
- 06 **さいたま経営らぼ** ～財務会計ワークショップ～
- 07 **さいたま経営らぼ** ～経営戦略・人事制度ワークショップ～
- 07 会員親睦ゴルフ大会／武蔵カントリー倶楽部 豊岡コース
- 08 **青年経営者部会** 11月例会
- 08 **青年経営者部会** 12月例会
- 09 年末調整実務セミナー
- 09 **第1回SDGs委員会** 障害者雇用促進セミナー
- 10 **教育関連事業** 「科学の甲子園」
- 10 **第3回産業教育委員会** 県立川越工業高校の視察と意見交換会
- 11 令和7年度 地区協議会視察会
～宇都宮ライトライン、レオン自動機(株)視察～
- 11 埼玉県からのお知らせ
- 12 2026「紙上名刺交換会」
- 15 埼玉大学研究者との出会いの広場
- 15 「ものづくり大学」へようこそ
- 16 「低成長時代の就業規則の見直し・改訂のポイント」
- 20 「ワンポイント労働法」
- 20 告知版、会員の動き



一般社団法人 埼玉県経営者協会

<https://www.saitamakeikyo.or.jp>



新春所感



会長 橋元 健

初春を迎え、会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新語・流行語大賞の一つに「戦後 80 年／昭和 100 年」が選ばれ、また 1995 年の「阪神・淡路大震災」から 30 年、オウム真理教による「地下鉄サリン事件」からも 30 年という節目の年でした。

一方、夏季には日本の平均気温が平年より約 2.3℃高く、1898 年の統計開始以来、最も高い値を記録いたしました。

この異常な猛暑による経済への影響については、大和総研の試算によれば、2025 年 7～9 月期の名目 GDP は猛暑効果により約 2,397 億円（+ 0.16%）押し上げられました。しかし、気温が 35℃を超えると外出控えや電気代高騰による消費鈍化、農業・観光・労働生産性の低下などで損失が拡大し、プラス効果は限定的だったと分析されています。

特に「令和の米騒動」とも称された農業分野の被害は甚大であり、コメ約 600 億円、果樹 150 億円、野菜 80 億円、畜産 50 億円など、合計約 880 億円規模の損失が報告されています。こうした状況に対応するためには、温室効果ガス削減などの緩和策に加え、気候変動の影響を軽減し、持続可能な社会を確保するための環境への適応対策に、産官学が一体となって取り組むことが一層重要となっています。

さて、ここで話題を転じます。お陰様をもちまして弊会は本年 6 月に創立 80 周年を迎えます。これまで長年にわたり会員をはじめ多くの皆様のご支援・ご協力に心より深く感謝申し上げます。

創立当時の記録によれば、弊会が創立されたのは、「わが国が独立を失い、あらゆる制度・機構が変革にさらされ、国民各層が混迷自失の状態にあった時である。（中略）その目的は、経営者相互の連絡提携により企業経営の合理化を図り、産業平和を確立し、県産業の振興を期するところにあった」と記されています。すなわち、経営者と労働者が協調し、安定した産業活動

を維持・確立することで、企業経営の合理化や県内産業の振興を図り、社会全体の安定を目指していました。

この思いは、創立当時とは環境が大きく異なる 80 年を経た現在においても変わっておりません。会員相互の交流を通じて企業の発展を促し、県内経済の活性化を図ることは、弊会の事業活動の根幹的な目的であり続けています。

こうした経緯を踏まえ、本年度より「会員企業等異業種交流会」や「会員間 PR サービス」を開始いたしました。さらに、環境対策としてのペーパーレス化に加え、創立 90 周年に向けた新たな取り組みとして、会報誌『埼経協ニュース』のデジタル化準備を進めております。これにより、会報誌の利便性と認知度を高めるとともに、掲載広告の周知効果を一層向上させるツールとして活用してまいりたいと考えております。

さて、本年 2026 年は「丙午（ひのえうま）」の年であり、火の力と午の勢いが重なるため、挑戦や飛躍に適した年とされています。こうした年にふさわしく、スポーツ界では、冬季五輪（ミラノ・コルティナ、2 月 6 日～22 日）、パラリンピック（3 月 6 日～15 日）、WBC（3 月 5 日～17 日）、FIFA ワールドカップ（北米 3 か国共催、6 月 11 日～7 月 19 日）、そしてアジア大会（愛知・名古屋、9 月 19 日～10 月 4 日）など、国際的なイベントが数多く予定されています。

このような状況の中、本県においても、初開催となる第 38 回全国健康福祉祭埼玉大会「ねんりんピック彩の国さいたま 2026」が、11 月 7 日（土）から 11 月 10 日（火）まで、厚生労働省・埼玉県・さいたま市等の共催により実施されます。県内全域を舞台に、全国から多数の参加者が集う大規模イベントとなりますので、大会の成功に向けて弊社としても積極的に取り組んでまいります。会員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、本年の弊社事業につきましては、各種セミナーや視察会等を一層充実させ、会員の皆様にとってより有益な存在となれるよう、不斷の努力を重ねてまいります。会員の皆様には、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様にとりまして本年が素晴らしく充実した一年となりますこと、さらにはお一人お一人のご健勝と事業のますますのご発展を謹んで祈念申し上げ、以上をもちまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上

》令和7年度第2回理事会・幹事会・講演会をハイブリットで開催

令和7年度上期事業報告、 収支報告等を満場一致で承認

日 時 11月18日(火) 場 所 大宮ソニックシティ国際会議室

参加者 29名

開会挨拶する橋元 健 会長



令和7年度第2回理事会・幹事会・講演会が開催され、令和7年度上期事業報告、上期収支報告、その他報告事項について橋元健会長が議長となり、事務局を代表して廣澤専務理事から説明を行った。

説明に基づき審議の結果、全ての議案とも満場一致で承認、可決された。

＜議案＞

(1)第1号議案 令和7年度上半期事業報告

(2)第2号議案 令和7年度上半期収支報告

・その他報告事項

会報誌「経協ニュース」のデジタル化の取り組み

非会員企業に向けたPR活動の促進

当日は会場16名、Web2名の理事が出席。監事2名、常任幹事・幹事13名（Web含む）、顧問などが

参加した。

また、5月の定時総会以降の副会長交替について、埼玉縣信用金庫 理事長 井上義夫様とNTT 東日本株式会社 埼玉事業部 執行役員 埼玉事業部長の小池哲也様が就任された旨の報告があった。

理事会終了後、株式会社 Oshicoco 代表取締役の多田夏帆氏による『推し活の現状と今後の可能性』というテーマでご講演をいただいた。



会場の様子

》令和7年度第2回理事会・幹事会 講演の部

推し活の現状と今後の可能性

講 師 株式会社 Oshicoco
代表取締役 多田 夏帆 氏

多田 夏帆 氏



本講演では、現代の日本における新たなライフスタイル「推し活」をビジネスに活用する手法について解説いただいた。広告が敬遠される時代、企業が勝つためには「買わせる」のではなく「推される」仕組みの設計が不可欠である。以下、講演内容を要約したものを掲載する。

1. 推し活の現状と定義

「推し活」とは、特定の対象を応援し、そのために自身を磨く活動を指す。現在、国内の推し活人口は1,400万人に達し、市場規模は約3.5兆円と推計されている。人間が本来持つ根源的な欲求の受け皿として、血縁や地縁等に次ぐ第4のつながり「推縁」という新たなコミュニティが形成されている。

2. 推し活マーケティングの戦略

マーケティング手法は主に3パターンに分類される。「推しを取り込む」「推し活を支える」「推される」の3つの戦略についてお話をいただいた。また、メンバーカラーやSNS映えするフックの作成、聖地巡礼の仕組み化など、ファンの熱量を高める取り組みが、

売上に直結する鍵となる旨の説明があった。

3. 実践のポイント

居酒屋や文房具、仏具店など、多様な業界で成功事例が生まれている。施策を成功させるには、実際に推し活をしている社員を起用することや対象へのリスペクトを欠かさないこと、そして妥協のない創作でファンの熱量に応える姿勢が重要である。

4. まとめ

推し活は、自分の推しを応援したり、推しのために自分磨きや創作活動をしたりすることである。市場規模は右肩上がりに伸びており、一般消費者向けの商品やサービスならば基本的にどんな業界でも「推し活」コンセプトと結びつけることは可能である。

エンターテインメント企業以外の企業が、ファンの熱意、1人1人の「好き」の気持ちを活用した「推し活マーケティング」の戦略を国内外で展開することで、日本のコンテンツの魅力を幅広く発信し、産業全体の発展につながる。

セミナー開催結果

》第7回トップセミナー

「失敗の本質」から学ぶ、 変化を勝ち抜く組織戦略とリーダーシップ

日時 12月5日(金) **場所** 大宮ソニックシティ 604
参加者 計 33 名 **講師** ビジネス戦略コンサルタント MPS Consulting
代表 鈴木 博毅 氏



講演する鈴木 氏

戦略は、これまでの失敗から生まれる。過去の失敗を具体的に認識することが、新しい戦略思考への扉を開く。逆に、失敗の本質とは、過去には効果があったものの現在ではその効果を失っていることに気づかず、続けてしまっていることである。成功した時期があるが故にその型にはまってしまい、有効性を疑にくい。

新しい戦略を立てるうえで注目すべき点は、業界共通のボトルネックにある。多くの企業は強み強化や差別化に終始するが、その場しのぎにすぎず、大きな成功に結び付かないことが多い。対して成功企業は、業界全体が諦めている課題を突破している。

例えば、ユニクロは流行予測不能というファッション業界の弱点を「即時生産」で克服し、ディズニーは年代の壁とリピート性というテーマパーク業界が抱え

る課題を打破した。

組織の成長を阻む問題の一つが、自社の現在を完成形だと捉えることである。企業の経営も未完成であるということを基準に考えると、発展的な視点に結び付くことが多い。

新しい成功の探索と実現に組織や社員を駆り立てられていないことも、成長を阻害する。組織は人間が作り出しているものであるから、人を効果的に動かせる人が経営においても勝者となる。人は情報で行動を決定する。経営者は社員を動かす情報を伝え続けるとともに、その伝え方も工夫する必要がある。

また、経営者自身も組織を構成する一員であるから、経営者自身が新しい情報に接することで、行動をアップデートすることも大切である。

》第4回特別セミナー

生産性向上のための生成 AI 実践活用セミナー

日時 11月28日(金) **場所** 大宮ソニックシティ 905 / Zoom
参加者 計 23 名 **講師** 株式会社第一生命経済研究所 ライフデザイン研究部
主任研究員 テクノロジーリサーチャー 柏村 祐 氏



講演する柏村 氏

人手不足を補うためには生産性の向上が欠かせない。そのツールとして導入されている生成 AI が企業の中で十分に活用されているかどうかは疑問である。

本セミナーでは「業務に応じた適正な生成 AI の選択と活用」について、適正な選択から活用事例までをわかりやすく解説いただいた。

はじめに、テクノロジーの過去・未来と生成 AI の可能性について解説いただいた。現代は「AI が人の代役となる時代」であり、今後、人と機械が共存・協調し、AI が人をを超える（シンギュラリティ）時代へと向かう 2050 年までのロードマップをご紹介いただいた。

また、主要先進国の労働生産性の変遷と、それに伴う今後の人手不足への対応策についてお話いただいた。生成 AI は仕事の多くの部分に効果があり、「資料の編集」「アンケート分析」「画像・動画生成」といっ

た実践的な活用法をご紹介いただいた。特に「資料編集」と「アンケート分析」において、人手と時間のかかる定型的な作業（データ整理や文章の推敲）や、人間では見落としがちな傾向の抽出において生成 AI を活用することで、より創造的で判断が求められる業務に集中できるようになる点をご教示いただいた。

最後に、各業種での生成 AI 活用事例とその成果についても共有され、AI が現在の労働環境と未来の働き方に与える影響を深く学ぶ内容だった。



》第3回特別セミナー

人手不足時代における多様な人材採用の動向と 企業・行政の取り組み

日 時 10月31日(金) **参加者** 計64名 **場 所** 大宮ソニックシティ 905 / Zoom

【第1部】

(株)マイナビの吐田仁氏より、新卒採用の現状とインターンシップの効果的な設計と題して講演をいただいた。



減少傾向にある大学卒業者数と反対に企業の新卒採用の意欲は高まっており、各企業は学生との接点づくりに尽力している。学生側もインターンシップへの応募は上昇傾向にあり、そこから内定につながるケースも増えている。具体的な企業の取り組み事例に触れつつ、採用活動にポジティブな結果をもたらすプログラムの特徴について説明をいただいた。

【第2部】

セキネシール工業(株) 代表取締役社長の関根 俊直氏より、中途採用における企業の工夫と取り組み事例と題して講演をいただいた。

同社もかつては人手不足で、少ない応募の中から妥協採用していたが、あらゆる採用チャネルを活用して粘り強く声をかけることで、望む人材との出会いが増えた。経営者自ら採用に携わることが重要。会社のビジョンや魅力を十分に伝えられるのは経営者しかいない。



【第3部】

埼玉県産業労働部雇用・人材戦略課 副課長の磯英樹氏、県民生活部国際課 副課長の小俣 綾範氏より、シニア人材や外国人材の確保支援に関する県の取組について介いただいた。



》令和7年度県立学校等管理職候補者名簿登載者研修会 未来の為にやるべきこと

日 時 11月17日(月) **場 所** 埼玉県立総合教育センター (行田市)
参加者 主幹教諭 29名 県及び教育局職員 46名 **主 催** 埼玉県教育委員会
講 師 日本電鍍工業株式会社 代表取締役 伊藤 麻美 氏



講演会の様子

◆講演の概要

管理職候補者名簿登載者研修では「民間企業に学ぶ人材育成」をテーマに、「未来の為にやるべきこと」と題してご講演いただいた。

ご講演の中で、同社の会社概要、事業内容、特徴、および自社開発の生産管理システム導入前後の従業員の変化、社内勉強会や家族向けイベントなどの多様な社内取り組みについてご紹介いただいた。中でも、組織の形や目的が異なっても根底は同じであることと組織を構成する「人」をいかに育てるかの重要性について時間を割いてお話しいただいた。

資源の乏しい日本にとって「人こそ資源」であるとし、人材育成の重要性やアプローチの方法についてご指南いただいた。管理職という立場で組織の運営に携わる者の心構えとして「仕事を任せる」「褒める」「足を使っ

て仕事をする」「コミュニケーション」といった、組織運営に必要な心構えについてご教示いただいた。

◆出席者感想 (一部抜粋)

・ご講演の中で「向上」という言葉を何回も使用していた。仕事・会社に対する情熱、社員に対する愛情、ポジティブな考え方により会社を再興できたのだと感じた。学校も、うまくいっている時とそうではない時がある。物事がうまくいかず職員の士気が下がったときに管理職として何ができるのか。何を大切にしていくのか、どういった発想の転換ができるのか。今あるもので何ができるか。そういったことを考えさせられる講義だった。

今回の講演が、学校教育のさらなる発展の一助となることを期待しています。

セミナー開催結果

» 経営人材育成講座「さいたま経営らぼ」

財務会計ワークショップ

日時 10月24日(金)、11月21日(金)、12月19日(金)

場所 大宮ソニックシティ 803、903

講師 久保公認会計士事務所 代表 久保 道晴 氏



講演する久保氏

【Day 1 (10月24日)】

決算書を読める人は大勢いるが、ただ決算書を読めるだけでは経営改善のプランは出てこない。決算書は個別具体的な情報は載っていないので、決算書が普段皆さんの会社が行う活動・行動のどの科目に影響を与えるのか理解できて、さらにその先の販管システムなどの細かいデータ分析と具体的なアクションに結び付けられることが重要。

BSを分析するときの着目点は、金額の大きいところ。例えば一番大きな金額が計上されている科目が長期借入金で、二番目が棚卸資産だとすると、この会社の借金が多いのは在庫のせいだと見えてくる。これが財務分析である。

PLには「利益」とつく項目が全部で5つ登場するが、それぞれの計算式と意味を押さえておく必要がある。現場がコントロールできるのは営業利益までで、経営層は当期純利益の黒字化まで責任を負う。

決算書分析を行う際は、必ず複数の期間を並べてみる。並べることで、増えるべきもの、減るべきものの、動かなくても良いものが不自然な動きをしていることが見えてくる。社内での新規事業展開や撤退、ベテランの退職やM & Aなどの活動がどのように決算書に表れているのか分析し、良いときはなぜよかったのか、なぜそれ以降再現できないのかということ进行分析し、販管データなども見ながら具体的な改善プランを考えていくことが、経営層には求められる。

【Day 2 (11月21日)】

企業の資金調達手段について話をしていく。決算書上の短期借入金、長期借入金は、実際の取引では「手形貸付」、「証書貸付」と呼ばれる。そのほかにも割引率は高くなるがすぐに換金できる「手形割引」、当座預金口座を持っている場合に極度額の範囲内まで借り入れできる「当座貸越契約」などがある。資金の使い道や緊急性の度合いに応じて使い分ける必要がある。

融資については、一般的なのが「マル保融資」で、

融資額の8割は保証協会の保証付き。一方でその枠がないのが「プロパー融資」。会社が成長したら、保証協会に頼らずどんどんプロパー融資に移行したほうがいい。融資の際は金融機関と計画段階から担当者とコミュニケーションをとり、密に連携することが重要。

社債については大きく公募社債、プロ社債、少数人私募社債の3種類に分かれる。基本的に償還期間は3年から5年なので、中長期の投資をするときには社債を活用するのもあり。

出資を受ける方法は上場して株を買ってもらう方法が一般的だが、投資育成株式会社を活用すれば上場せずに安定株主を得ることができる。

補助金は募集開始から締切が短いので、昨年度の実績を確認しておく準備ができる。ただ、あくまでもタイミングが合えば活用すべきものであって、補助金に合わせて戦略を組むことはNG。補助金ありきの事業は大体失敗する。

資金調達にあたり、しっかりと自社の経営分析をすることが重要。収益性、効率性、安全性、総合力、成長性の5つの観点から分析していく。

【Day 3 (12月19日)】

参加者は自社の決算書分析を行い、それを踏まえて5年後のありたい姿、それを達成するための資金調達手段について検討し、発表を行った。



発表の様子

セミナー開催結果・会員親睦ゴルフ大会

》経営人材育成講座「さいたま経営らぼ」

経営戦略策定ワークショップ

日 時 11月6日(休) 場 所 大宮ソニックシティ 903

参加者 計10名 講 師 ブレインボックスコンサルティング
代表 小林 幹彦 氏

戦略サマリー
発表の様子



3回目となる同ワークショップでは、事前に課題として与えられた「戦略サマリー」をそれぞれ発表した上で、戦略を実行するために必要な組織マネジメント、人材マネジメントについて学んだ。

組織マネジメントを俯瞰するフレームとして「7S」という概念がある。真ん中に位置するのが「Shared Value（共有価値）」で所謂企業理念と呼ばれるもの。これを実行するために Strategy（戦略）、Structure（組織構造）、System（システム）、それをさらに体系

立てて実行するために、Staff（人材）、Skill（スキル）、Style（スタイル）という要素が加わる。組織マネジメントは、経営戦略という道標に沿って、PDCA サイクルで考える。

戦略を実行できなかった原因が個人にあった場合、それを個人の問題と捉えてはいけない。個人の能力不足に起因していた場合、その社員の能力を高めることをプランに組み込んでおかないといけない。このように、個人の問題を組織の問題と捉える必要がある。

》経営人材育成講座「さいたま経営らぼ」

人事制度ワークショップ

日 時 12月4日(休) 場 所 大宮ソニックシティ 903

参加者 計9名 講 師 東京保健医療専門職大学 特任教授 片岡 幸彦 氏

講演する
片岡 氏



グローバル化、少子高齢化など、企業を取り巻く環境は常に変化する中で、人事上の課題も変わってきているが、アップデートできていない企業は多い。

人事制度の構築においては、「人」「仕事」「賃金」がそれぞれバランス良く均衡を維持できていて、分かりやすく、公正であり、社員のモチベーションとモラルを高めていくことが大前提である。そのうえで、自社の経営理念・戦略と一貫性と整合性のある制度を構

築する必要がある。

制度の形としては大きく人基準のメンバーシップ型、仕事基準のジョブ型に分かれ、そこからさらに能力基準や行動基準、役割や状況で賃金を柔軟に変更するのか、固定なのかなど、様々である。最新のものが正解というわけではなく、全企業に共通で当てはまるものもない。自社にとって最適な制度を作り上げる必要がある。

》第2回橋元会長杯争奪戦 ～会員親睦ゴルフ大会～

矢部利人氏（丸和工業(株)／代表取締役）が総合優勝

日 時 11月7日(金) 場 所 武蔵カントリー倶楽部 豊岡コース

参加者 22名

原 敏成 名誉会長より
矢部 利人 氏を表彰



第2回橋元会長杯争奪の会員親睦ゴルフ大会が武蔵カントリー倶楽部豊岡コースにて開催された。好天の下、ダブルペリア方式で競技を行い、アウト41、イン38、グロス79のスコアで回った矢部利人氏がネット73.0で総合優勝を飾り、橋元会長杯を受賞した。

＜初参加者の方々（順不動／敬称略）＞

- ・大橋 尚幸（ウチノ看板(株)／取締役）
- ・久保 猛（野村不動産ソリューションズ(株)／執行役員）
- ・島田 直人（ミサワリフォーム関東(株)／顧問）

【主な成績】

成績	氏名(敬称略)・企業名	グロス	ハンデ	ネット
総合優勝	矢部 利人 (丸和工業(株))	79	6.0	73.0
準優勝	上條 正仁 (埼玉県経営者協会)	90	16.8	73.2
3位	大槻 智輝 (株)アイダ設計)	95	21.6	73.4
グランドシニア優勝 (75歳以上)	桑原 克己 (サイエンス(株))	97	19.2	77.8
シニア優勝 (65歳以上)	上條 正仁 (埼玉県経営者協会)	90	16.8	73.2
ベストグロス	矢部 利人 (丸和工業(株))	79	OUT 41	IN 38

青年経営者部会

》令和7年度 青年経営者部会 11月例会

株式会社ヤオコー・プロロジス 視察会

日時 11月27日(木) 場所 プロロジスパーク草加
(ヤオコー草加物流センター)

参加者 15名

講師 (左) 株式会社ヤオコー 専務取締役 上池 昌信 氏
(右) プロロジス プロパティ・マネジメント部 荒澤 修平 氏



11月例会として、ヤオコー草加物流センター及びプロロジスパーク草加の視察会を実施した。

(株)ヤオコーは、商品を高鮮度で効率よく一定の時間内に店舗へ配送するために、物流拠点の最適配置や持続可能な食品物流の構築を進めている。

2023年に開設された草加物流センターでは、新たな取組として「順立てシャトル」「GTP (Goods To Person) シャトル」と呼ばれる、仕分けのための2基のシャトルを設置し、自社初の倉庫管理システムを導入した。物流センター内作業の効率化を推進しているほか、店舗ごとの通路別納品や、荷物の積み付け基準をガイドライン化するなど、店舗作業の効率化も図っている。

同センターが入居している施設が「プロロジスパーク草加」である。

運営するプロロジスは物流不動産会社として世界20か国において施設を開発・運営している。プロロジスパーク草加では、約2メガワットの太陽光発電設備、ピークカット用蓄電池、一括制御可能なセンサーLEDの採用など、徹底した省エネに取り組んでいるほか、災害リスクに備えて免震システム、非常用発電機などを設置している。



ヤオコー草加物流センター「GTP シャトル」

》令和7年度 青年経営者部会 12月例会

講演会・事例発表

日時 12月8日(月) 場所 大宮ソニックシティ

参加者 14名

講師 気象予報士／フリーキャスター 根本 美緒 氏

事例発表 株式会社フカワビジネス 代表取締役社長 小谷野 和統 氏



講演する
根本 美緒 氏



事例発表の
小谷野 和統 氏

【講演会・事例発表・懇親会】

12月例会として、第1部では上智大学非常勤講師の根本美緒氏によるご講演、第2部では株式会社フカワビジネス代表取締役社長の小谷野和統氏による事例発表が行われた。

本講演では、「環境システム学の観点から気候変動対策を考える」をテーマに、気候変動の具体的な現象（地球温暖化、極端現象、海水温上昇の影響）とその影響等について事例を交えてお話しいただいた。

対策として、緩和策と適応策の二つの柱に触れ、特にビジネスとの関わりから脱炭素経営における欧米とアジアの現状をわかりやすくご紹介いただいた。環境システム学の観点を交え、根本氏の研究テーマである「街路樹が減らせる熱ストレスの研究」にも焦点が当てられ、自治体と連携した具体的な研究事例とともに、「体に優しい街づくり」という視点から、ビジネスへの応用を含む内容として解説いただいた。

第2部では「今のオフィスのあり方～防災備蓄の観点から～」と題し、早期復旧・復興に向けた取り組みとしてBCPの重要性について発表いただいた。

その上で、自治体の帰宅困難者対策や備蓄状況などの詳細な情報に基づき「オフィスを避難所に」することの重要性が提言された。これにより、従業員の安全確保とBCP（事業継続計画）の早期実行・強化が可能になると報告された。そのための具体的な備え、BCPが特に求められる業種、平時から防災用品を福利厚生として活用したり体験を通じて防災意識を向上させたりする具体的な取り組みについても紹介された。

講演会・事例発表後には、懇親会が行われ、参加者同士が和やかに交流を深めることができた。



》 年末調整実務セミナー

年末調整実務セミナー

日 時 10月28日(火) **場 所** 大宮ソニックシティ

参加者 31名 **講 師** 株式会社ブレインコンサルティングオフィス
特定社会保険労務士 鷺尾 清美 氏

講義する
鷺尾 清美 氏



年末調整は、正確さが求められる重要な業務である。給与ソフトへの入力も「改正点」と「しくみ」を理解していなければ正しく対応することはできない。

今回のセミナーでは、令和7年度の税制改正に伴う年末調整の複雑な変更点に対応するため、基礎知識と実践的な計算方法を習得することを目的に開催した。

第1部では、年末調整の「しくみ」を、オリジナルテキストとチェック問題を通じて基礎から解説し、理解を深めた。また、今年度の主な改正点である「基礎控除および給与所得控除の引き上げ」「扶養親族等の所得要件の見直し」「関係書類の様式変更」など、例年になく複数の変更点について解説していただいた。

第2部では、第1部で解説のあった変更点を踏まえ、実際に手を動かしながら年末調整の計算を完成させる

実践的な演習を通し、改正点を踏まえた正確な年末調整の知識と計算スキルの習得を目指した。

参加者アンケートの回答には、「今まで自分なりに調べて行っていたが、細かい部分も改めて確認、理解することができた。」「毎年何かしらの年末調整セミナーを受講しているが、一番わかりやすく理解を深めることができた。」「実務に即しており、会社に戻って振り返りができる資料になっていた。」などの感想があり、充実したセミナーとなった。



講義の様子

》 第2回 SDGs 委員会

障害者雇用促進セミナー

日 時 11月26日(水) **場 所** オンライン

参加者 225名 **共 催** 埼玉県、埼玉労働局

制度説明 「障害者採用で活用できる助成金」

厚生労働省埼玉労働局 職業安定部 職業対策課 雇用開発係長 長島 裕高 氏

講 演

「現場のモヤモヤに応える障害者雇用 『業務がない・定着しない』悩みの根っこをひもとく」
障害者雇用ドットコム代表 東京情報大学非常勤講師 松井 優子 氏

事例発表①

「障がい者雇用と共育（ともそだち）」
株式会社コマーム 人財サポート部 課長 澤畠 由香里 氏

事例発表②

「障がい者と一緒に企業風土改革」
株式会社デリモグループ 株式会社スマート FUN 課長代理 佐藤 次澄 氏

事業説明

「障害者を雇用するに当たっての支援」
埼玉県障害者雇用総合サポートセンター 企業支援業務部門 部門長 吉原 市郎 氏



講師の松井 優子 氏

障害者雇用を促進するため、昨年に続き本会、埼玉県、埼玉労働局の共催で障害者雇用促進セミナーを開催した。

【講演】

障害者雇用におけるモヤモヤの正体を「構造」で理解し、整えることで解決や改善に導くことができる。「業務がない」「定着しない」「職場の理解が追いつかない」「精神障害の対応が難しい」といった課題に対する取り組みの方法や、企業の成長につながる視点を講演いただいた。

【事例発表①】

「多様な子どもたちの成長には多様な大人のかかわ

りが必要」という考えのもとに障害者雇用を実施しているとお話いただいた。雇用までの道のりや受け入れ施設、当事者スタッフの声、共育（ともそだち）の具体的なエピソードをご紹介いただいた。

【事例発表②】

「デリモのありたい姿（誇りの持てる会社づくり）」には、自分たちの家族や仲間職場を自信をもって紹介することが必要。」という考え方と、取組事例をご説明いただいた。特例子会社立ち上げの経緯や実際の業務内容、今後の挑戦などに加え、活動中の動画もご紹介いただいた。

教育関連事業・現地視察会

第15回 科学の甲子園埼玉県大会 ～広げよう科学の輪 活かそう科学の英知～

日時 11月8日(土) **場所** 東洋大学朝霞キャンパス **主催** 埼玉県教育委員会
参加者 27校 48チーム 286名 **講師** 特別講演 キヤノン電子株式会社取締役・宇宙技術研究所所長 酒匂 信匡 氏

「科学の甲子園」は、国立研究開発法人科学技術振興機構が主催し、理科・数学・情報の複数分野の知識を高校生が競う取組である。特別講演では「小型衛星による宇宙開発」と題して、キヤノン電子株式会社取締役・宇宙技術研究所所長の酒匂様にご講演いただいた。

今年度より、筆記競技は各学校を会場に事前に実施され、当日は実技競技のみが開催された。実技競技では、規定の製作材料を使って、決められた時間内に空気圧機構を使った片手または両手で操作できるマジックハンドを製作し、チームで協力してマジックハンドを操作してものを運ぶ運搬競技が行われた。

優勝となった川越高校Aは埼玉県を代表し、令和8年3月20日から茨城県つくば市で開催される「科学の甲子園全国大会」に出場する。

科学の甲子園の協働パートナーとして、本大会にご協力いただいた企業の皆様、誠にありがとうございました。



全体集合写真（閉会式）



総合優勝した
川越高校Aチーム

R7年度協働パートナー企業（9社）※五十音順

AGS株式会社	株式会社オオツカハイテック
キヤノン電子株式会社	埼玉縣信用金庫
株式会社埼玉りそな銀行	株式会社タムロン
株式会社ハーベス	株式会社武蔵野銀行
一般社団法人埼玉県経営者協会	

大会結果

総合の部

優勝（埼玉県教育委員会賞）	県立川越高等学校A
準優勝（キヤノン電子株式会社賞）	県立浦和高等学校
第3位（株式会社埼玉りそな銀行賞）	県立大宮高等学校B

実技の部

第1位（AGS株式会社賞）	川口市立高等学校A
第2位（埼玉縣信用金庫賞）	県立浦和高等学校
第3位（株式会社オオツカハイテック賞）	県立杉戸高等学校A

筆記の部

第1位（株式会社タムロン賞）	県立大宮高等学校B
第2位（株式会社ハーベス賞）	開智中学・高等学校A
第3位（株式会社武蔵野銀行賞）	県立川越高等学校B

特別賞

（一般社団法人埼玉県経営者協会賞） 三郷工業技術高等学校A

R7年度出場校（27校 48チーム）※1チーム6名

伊奈学園、浦和、浦和第一女子、大宮、春日部、川越、川越女子、川口北、熊谷、熊谷女子、熊谷西、越ヶ谷、越谷北、杉戸、所沢北、南陵、富士見、不動岡、松山、三郷工業技術、大宮北、大宮国際、川口市立、大宮開成、開智、栄東、細田学園 以上

》第3回産業教育委員会

県立川越工業高校の視察と意見交換会

日時 11月20日(木) **場所** 県立川越工業高校
参加者 39社 52名

(左) 挨拶する染谷 明生 校長
(右) 挨拶する高橋 秀夫 指導主事



県立川越工業高校は、デザイン科・化学科・建築科・機械科・電気科からなる工業高校である。「モノづくりをとおして新たな価値を見出し、新たな時代を創る技術者を育成する」を目指す学校像としている。

学校概要説明では、工業高校の専門性をはじめ、地元商店街や川越市との連携事業について説明があった。進路指導説明では、進路指導部の方針として、進路決定までの3のプロセス（Step1「将来就きたい職種・企業規模を決める」、Step2「上級学校に進学が必要かどうか調べる」、Step3「進学が就職が決まる」）を徹底していることや複数応募制の説明があった。なお、複数応募制については、生徒へ周知しているものの全員が1社のみの受験であった旨の報告があった。

授業や実習の様子・施設は決められた時間内で自由に見学することができ、「自由に校舎を見学できるスタイルは斬新で刺激があった。」と好評であった。

意見交換会では、10名の生徒に出席いただいた。「進

路先を決める際の決め手」「進路先の企業に求めるもの」などの質問があり率直な回答をいただいた。

参加企業からは「先生方の想いや、教育方針、それが実際の生徒さんの生き生きとした様子に繋がっていることが伺える素敵な視察会でした。」「先生や学生さん自身から、生の声を聞けて良かった。」などの感想があり、充実した意見交換会となった。

今年度は、産業教育委員会として「農業」「工業」「商業」の計3校の専門高校の視察会を開催することができた。視察先の選定から当日の運営に至るまでご協力をいただいた埼玉県教育委員会と杉戸農業高校・川越工業高校・狭山経済高校の関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



》令和7年度 4地区協議会共催「現地視察会」

宇都宮ライトライン、 レオン自動機(株)上河内工場視察

日 時 12月4日(木) **参加者** 17名 **場 所** 栃木県宇都宮市

レオン自動機(株)
上河内工場前
集合写真



令和7年度4地区協議会共催による「現地視察会」が開催され、宇都宮市の次世代型路面電車「ライトライン」とレオン自動機(株)の工場を、午前・午後の二部構成で視察した。

午前のライトライン視察では、乗車前に説明会が行われ、概要や沿線の現状について理解を深めた。ライトラインは栃木県内の地価上昇ランキングで沿線がトップ3を独占するなど、地域への波及効果が顕著であることが示された。さらに、JR宇都宮駅西側への延伸に向けた検討が進められていることも説明され、今後の都市交通網の拡充に期待が寄せられた。

午後に訪れたレオン自動機(株)は、1963年に創業し、世界で初めて饅頭形成機「自動包あん機」を発明したことで知られる。同工場では、設計から製造、検査、

さらに機械のテスト場や梱包、出荷に至るまで、各セクションが結集した一貫体制を採用。部品の加工・組み立て・検査などの製造工程を一元管理することで、高品質な機械を合理的に生み出している様子が紹介された。

工場の視察を通じて、参加者はレオン自動機(株)の技術力と品質管理の徹底ぶりを実感し、食品機械産業における同社の存在感を改めて確認する機会となった。



乗車車両の前で記念撮影



工場内視察の様子

埼玉県からの お知らせ

コバトン

第6回企業の採用活動最前線 セミナー参加者募集

県では、採用、定着などに関する最新の情報提供を行うセミナーを開催しています。今回は、採用環境の変化や静かな退職（Quiet Quitting）の実態を踏まえ、採用と定着を両立させる働きやすい職場づくりのポイントを解説します。

日時：令和8年2月3日(火)

14時～16時（ZOOM開催）

講師：永島寛之氏（トイトイ合同会社代表、元ニトリ人事責任者）

〇県企業人材サポートデスク
(048-826-5213)



オーダーメイド型技能講習の お知らせ

県では、中小企業等を対象に、社員のスキルアップのための講習を実施します。講習内容や日数等は要望

に応じ設定可能です。

〇定員

3人以上

〇受講料

1人当たり2,000円～

詳細はこちらから→

〇県産業人材育成課
(048-830-4598)



彩の国 BCP サポーターによる 事業継続力強化計画策定支援 について

県では、県内中小企業に対して、経済産業大臣が認定する簡易版BCPである事業継続力強化計画の普及促進や策定支援を行っています。サポーターの支援を受けて事業継続力強化計画の認定を受けると、県オリジナル「認定確認証」を交付いたします。策定支援をご希望される場合は下記まで問い合わせください。

〇県産業支援課
(048-830-3903)



災保険株式会社との包括的連携協定に基づき、BCPセミナーを開催します。参加特典もございますので、この機会をぜひご活用ください。

日時：令和8年2月5日(木)

14時～16時

会場：新都心ビジネス交流プラザ4階
会議室C（さいたま市中央区）

内容：第1部 講義

第2部 ワークショップ

定員：50名（申込順）

費用：無料

〇県産業支援課
(048-830-3903)



埼玉県中小企業制度融資の 御案内

事業者の皆様の資金繰りを支援するための融資制度を設けています。県が金融機関に対して利子補給を行うことにより、県の定める低い利率で金融機関から融資を受けることができます。

詳細はこちらから→



〇問い合わせ先

事業所がある地区の商工会議所又は商工会、県制度融資の取扱金融機関

〇県金融課
(048-830-3801)

BCP（事業継続計画）セミナーの 参加者募集！

県では、県内中小企業のBCP策定を支援するため、三井住友海上火



謹賀新年



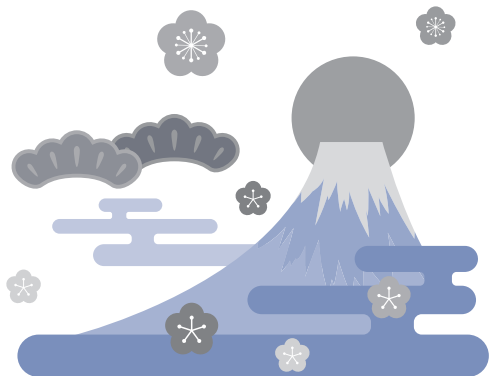
紙上名刺交換会 到着順掲載

代表取締役 社長 キヤノン電子株式会社 橋元 健	取締役 社長 武州瓦斯株式会社 原敏成	取締役 会長 株式会社愛工舎製作所 牛窪啓嗣	代表取締役 株式会社 松本商会 松本 伸一郎	取締役 社長 富士倉庫運輸株式会社 寺畑貴史
代表取締役 社長 株式会社 埼玉りそな銀行 福岡 聡	代表取締役 社長 A G S 株式会社 中野真治	代表取締役 会長 吉野電化工業株式会社 吉野寛治	執行役員 大宮支社長 東日本旅客鉄道株式会社 石井剛史	理事長 埼玉縣信用金庫 井上義夫
代表取締役 会長 株式会社 デリモ 栗田美和子	代表取締役 社長 株式会社 デリモ 栗田慶太郎	代表取締役 社長 株式会社 デサン 藤池一誠	代表取締役 会長 埼玉日産自動車株式会社 佐藤友昭	代表取締役 社長 C E O サンケン電気株式会社 高橋 広



紙上名刺交換会 到着順掲載

<p>代表取締役 社長</p> <p>松川 晃代</p> <p>株式会社東立製作所</p>	<p>代表取締役</p> <p>大野 洋子</p> <p>株式会社ゼネラルサービス</p>	<p>理事長</p> <p>飯能信用金庫</p> <p>松下 寿夫</p>	<p>理事長</p> <p>青木信用金庫</p> <p>木滝 崇弘</p>	<p>代表取締役 社長</p> <p>望月印刷株式会社</p> <p>山部 鉄兵</p>
<p>代表取締役 社長</p> <p>木村 和貴</p> <p>株式会社中央デパート</p>	<p>代表取締役 社長</p> <p>影山 直司</p> <p>株式会社ビックスコーポレーション</p>	<p>代表取締役 社長</p> <p>武州産業株式会社</p> <p>堀田 辰一</p>	<p>埼玉中央 支店長</p> <p>損害保険ジャパン株式会社</p> <p>田名田 曜行</p>	<p>代表取締役</p> <p>日本自動車管理株式会社</p> <p>三原 宏治</p>
<p>代表取締役 社長</p> <p>三位電気株式会社</p> <p>佐藤 仁</p>	<p>代表取締役</p> <p>株式会社ラスコ</p> <p>堀野 賢一</p>	<p>代表取締役</p> <p>積田冷熱工事株式会社</p> <p>積田 鉄也</p>	<p>代表取締役</p> <p>武蔵コーポレーション株式会社</p> <p>大谷 義武</p>	<p>支店長</p> <p>株式会社フジタ</p> <p>中島 直史</p>



紙上名刺交換会 到着順掲載

取締役
会長

坂戸ガス株式会社

山口泰明

代表
取締役

島村電業株式会社

島村典泰

埼玉中央
支店長

東京海上日動火災保険株式会社 埼玉中央支店

内田清隆

法社一般
人団体

埼玉県経営者協会

専務理事
職員 廣澤 健一
同





2050年カーボンニュートラルに向けた脱炭素教育の実践

社会変革研究センター脱炭素推進部門 持木 克之 准教授

2023年1月に設置された社会変革研究センターの「脱炭素推進部門」では、環境省により選定された「脱炭素先行地域」の共同提案者として「さいたま発の公民学によるグリーン共創モデル」の取組に関わりつつ、カーボンニュートラル社会実現に向けた研究を進めてきました。

内閣府の調査結果では、地球温暖化対策に対する若年層の意識や行動割合は他の年代と比べて低い状況にあります。そこで、新たに、全学共通の科目として、「脱炭素社会を生きる」「電気とカーボンニュートラル」の2科目を、アクティブラーニング型で学生自らが考え、学ぶタイプの授業として開講しました。

「脱炭素社会を生きる」では、埼玉県との協力を得て、今年度新規事業の「温暖化対策啓発動画コンテスト」に若者が参加したくなる企画アイデアを検討し、提案しました。4つのグループに分かれ、応募したいコンテストの内容、それを実現するための課題、課題の解決策を考え、授業時間外にも集まって提案をまとめていました。最終回は、埼玉県庁の佐藤温暖化対策課長をはじめ、多くの方にお越しいただき、学生が自らの提案をプレゼンしました。その様子は各メディアに取り上げていただくとともに、7月開始

のコンテストでは多くの提案を採用いただきました。

「電気とカーボンニュートラル」では、脱炭素先行地域の共同提案者である東京電力パワーグリッド埼玉総支社の協力を得て、3日間の夏季集中講義として開講しました。2日目には東京電力グループの施設で、電気の歴史や発電の仕組みを学ぶとともに、実物大の発電機のスケール感を体感しました。授業を通じ、電気によるエネルギーの大きさを感じ、電気に自らがどのように関わっていくかを考える機会となりました。

カーボンニュートラルの目標である2050年には、現在の大学生は40歳代となり、社会の中核を担う世代となります。大学生とともに無理せず快適さを維持しつつも脱炭素実現にしっかり向き合い、良好な地球を将来に引き継いでいけるように教育・研究を一歩前に進めていきます。



提案をプレゼンした学生
～脱炭素社会を生きる～

》産業への展開 どんな温暖化対策から始めれば良いかお悩みでしたら、ご相談ください。無理なく少しずつ始めていきましょう。

学歴・略歴 持木 克之（もちき かつゆき）2002年東京工業大学（現・東京科学大学）大学院総合理工学研究科修士課程修了、埼玉県庁に入庁。2011年9月東京工業大学（現・東京科学大学）大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻博士課程修了（博士（工学））。民間企業を経て、2024年9月より現職。専門は環境計画（環境影響評価、地域環境管理）。



草加市木橋リノベーション事業

建設学科 芝沼 健太 講師

草加市には供用を開始してから20年以上が経過している木橋が4橋存在します。経年劣化により老朽化が進んでいるため修繕が必要な状況です。しかし、木橋ごとに老朽化の度合いに差があるため、最適な修繕方法は橋により異なり、効果的な修繕を行うには専門的知識が必要です。そこで、橋りょうの設計施工や木造建築の知識に長けている、ものづくり大学と草加市で連携し、木橋の修繕について技術的協力を行うべく2024年5月に「木橋リノベーション事業に関する基本協定書」の締結をしました。事業を通して、市には学生の教育・研究の場を提供いただき、大学は知識や技術を提供することで地域貢献につながることを目的としています。

昨年度は中根ふれあい橋の補修工事を行いました。橋は現地から解体せず大学まで運搬され、搬入後は橋の解体を行い、劣化状況を把握して改修方針を作成しました。劣化の主な内容は、雨水がビス穴等から木材に侵入したことによる腐朽です。腐朽により、部材の強度も低下します。そこで改修では、既存木材の強度を補強すると同時に水の侵入を防ぐ補修を行いました。具体的には、橋

梁の補強で使用される炭素繊維シート（CFRPシート）を水が浸入する箇所に施工することにより劣化した部材の構造補強と防水を同時に行いました。木材へのCFRPシートの使用はあまり例がないため、大学で実験を行い、性能の確認も行いました。約4か月の作業で補修作業は完了し、完成後は開通式を行い、実際に橋を使用する現地の方々には新しくなった橋を喜んでいただきました。今年度は、2橋目のふれあい橋を補修中です。

当研究室では木質構造物の診断・補強や維持管理に関する共同研究等も承りますので、お気軽にご相談ください。



CFRPシートによる部材の補修



補修後の中根ふれあい橋

芝沼 健太（しばぬま けんた）講師 宇都宮大学大学院博士前期課程修了。設計工房佐久間を経て、2024年4月より現職。NPO木の建築フォーラム理事、日本建築学会所属。専門は木造住宅の耐震性能に関する研究。（連絡先：048-564-3855 / k_shibanuma@iot.ac.jp）

第140回

働き方改革推進法による就業規則改正の実務（18）

弁護士 安西 愈

④ 第4 テレワークの推進と就業規則について

9 テレワーク勤務における労働時間について

(4) いわゆる中抜け時間の取扱い

1) テレワークの労働時間の取扱いにおける中抜け時間とは

テレワークの実施に伴う、いわゆる中抜け時間について、厚労省の「テレワークにおける適切な労務管理のためのガイドライン」において、「テレワークに際して生じやすい事象」として「テレワークについては、以下のような特有の事象に留意する必要があります。」として中抜け時間について以下のように記載されている。

・いわゆる中抜け時間について

在宅勤務等のテレワークに際しては、一定程度労働者が業務から離れる時間が生じやすいと考えられます（いわゆる中抜け時間）。



なお、始業や終業の時刻の変更が行われることがある場合には、その旨を就業規則に記載しておかなければなりません。また、時間単位の年次有給休暇を与える場合には、労使協定の締結が必要です。

また、同ガイドラインのQ&Aでは「いわゆる中抜け時間」について次のように示されている。

Q テレワークを実施する予定の労働者から、「テレワーク実施日に、銀行や役所の用事を片付けたいので、休憩時間を1時間延長して、終業時刻を1時間繰り下げたい」と言われました。労働者の都合に応じた所定労働時間の変更は可能でしょうか。

A 銀行や役所の用事を済ませるための時間は、いわゆる中抜け時間ですので、使用者が業務の指示をしないこととし、労働者が労働から離れ、自由に利用

することが保証されている場合、終業時刻の繰り下げなどの所定労働時間の変更は可能です。ただし、あらかじめ就業規則に規定しておく必要があります。また、企業が所定労働時間を一方的に変更することはできませんので、ご注意ください。

そして、次のようにテレワーク時の中抜けの取扱い例があげられている。

テレワーク時の中抜けの取扱い例



2) 中抜け時間の把握の取扱いについて

中抜け時間の取扱いについては、2021年3月25日厚労省公表の「テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン」においては、次のような弾力的な把握の取扱いが認められている。

「テレワーク中の中抜け時間を把握する場合、その方法として、例えば一日の終業時に、労働者から報告させることが考えられる。

また、テレワーク中の中抜け時間の取扱いとしては、

- ① 中抜け時間を把握する場合には、休憩時間として取り扱い終業時刻を繰り下げたり、時間単位の年次有給休暇として取り扱う。
- ② 中抜け時間を把握しない場合には、始業及び終業の時刻の間の時間について、休憩時間を除き労働時間として取り扱う ことなどが考えられる。

これらの中抜け時間の取扱いについては、あらかじめ使用者が就業規則等において定めておくことが重要である。」

3) 中抜け時間についての問題点について

この「ガイドライン」における中抜け時間の取扱い等の変更については、次のような問題点が指摘されている。

すなわち、「中抜け時間の扱いについては、既に2018年ガイドラインにおいて一定の整理が示されており、労働からの解放が保障されていることを①休憩時間として扱った上で、始業・終業時刻の繰り上げ、繰り下げをすることや、②時間単位の年次有給休暇として取り扱うことが提案されていた。ただし、同ガイドラインも言及するように、始業・終業時刻の変更については、就業規則に予め規定しておくこと、時間単位の年休付与に際しては労使協定を締結することが求められるため、こうした対応がなされていない場合の取扱いがなお課題となっていた。この点に関し、2021年ガイドラインは、労働基準法上、中抜け時間を把握しなくても良いこと、その際、中抜け時間を含めて労働時間として取り扱うことが考えられることを明示した。プレゼンス管理ツール等により、技術的には、トイレやコーヒープレイク、インターフォンへの対応等をも休憩と把握することが可能となっているが、少なくとも労働基準法上こうした把握が要請される訳ではないことを示したものとしよう。もっとも、育児・介護等、より長い時間生じることとなる中抜け時間については、職務専念義務違反の問題も生じうる。時間外労働が発生しないことや業務の進捗に影響が生じないことを前提にこうした中抜けを黙認するか、あるいは、中抜けが生じた場合には申告を求め、これを休憩等として扱うか否かは、テレワーク実施にあたりルール化しておく必要があるといえよう。なお、ルール化されていない中で生じた中抜けが職務専念義務違反に該当するか否かは、中抜けの頻度や時間、他の労働者への影響、テレワーク制度の趣旨や管理の状況、中抜けが生じる事情の回避可能性等を総合的に考慮した上で判断されるべきと解する。」(石崎由希子「雇用型テレワークに係る労働法上の課題」季刊労働法274号14頁)と職務専念義務との関係や育児・介護等問題点が指摘されている。

(5)事業場外みなし労働時間制について

1) 事業場外みなし労働時間制とは

「ガイドライン」では、テレワークにおける労働時間

制として「事業場外みなし労働時間制」を掲げている。

「事業場外みなし労働時間制」とは労基法第38条の2に定める事業場外労働のことをいい以下のとおり規定されている。

「〔事業場外労働〕

第38条の2 労働者が労働時間の全部又は一部について事業場外で業務に従事した場合において、労働時間を算定し難いときは、所定労働時間労働したものとみなす。ただし、当該業務を遂行するためには通常所定労働時間を超えて労働することが必要となる場合においては、当該業務に関しては、厚生労働省令で定めるところにより、当該業務の遂行に通常必要とされる時間労働したものとみなす。

② 前項ただし書の場合において、当該業務に関し、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合があるときはその労働組合、労働者の過半数で組織する労働組合がないときは労働者の過半数を代表する者との書面による協定があるときは、その協定で定める時間を同項ただし書の当該業務の遂行に通常必要とされる時間とする。

③ 使用者は、厚生労働省令で定めるところにより、前項の協定を行政官庁に届け出なければならない。」

すなわち、「事業場外労働に関するみなし労働時間制の対象となるのは、事業場外で業務に従事し、かつ、使用者の具体的な指揮監督が及ばず、労働時間を算定することが困難な業務であり、事業場外で業務に従事する場合であっても、使用者の具体的な指揮監督が及んでいる場合については、労働時間の算定が可能であるので、みなし労働時間制の適用はない(昭63.1.1基発1号)と通達されている。

2) テレワークにおけるみなし労働時間とは

テレワークに関しては、次のとおり通達されている。「次に掲げるいずれの要件をも満たす形態で行われる在宅勤務(労働者が自宅で情報通信機器を用いて行う勤務形態をいう。)については、原則として、労働基準法第38条の2に規定する事業場外労働に関するみなし労働時間制が適用されるものと解してよい。

[1] 当該業務が、起居寝食等私生活を営む自宅で行われること。

[2] 当該情報通信機器が、使用者の指示により常時通信可能な状態におくこととされていないこと。

[3] 当該業務が、随時使用者の具体的な指示に基づいて行われていないこと。

なお、この場合において、「情報通信機器」とは、一般的にはパソコンが該当すると考えられるが、労働者の個人所有による携帯電話端末等が該当する場合もあるものであり、業務の実態に応じて判断されるものであること。

「使用者の指示により常時」とは、労働者が自分の意思で通信可能な状態を切断することが使用者から認められていない状態の意味であること。

「通信可能な状態」とは、使用者が労働者に対して情報通信機器を用いて電子メール、電子掲示板等により随時具体的指示を行うことが可能であり、かつ、使用者から具体的指示があった場合に労働者がそれに即応しなければならない状態（即ち、具体的な指示に備えて手待ち状態で待機しているか、又は待機しつつ実作業を行っている状態）の意味であり、これ以外の状態、例えば、単に回線が接続されているだけで労働者が情報通信機器から離れることが自由である場合等は『通信可能な状態』に当たらないものであること。

『具体的な指示に基づいて行われる』には、例えば、当該業務の目的、目標、期限等の基本的事項を指示することや、これらの基本的事項について所要の変更の指示をすることは含まれないものであること。

また、自宅内に仕事を専用とする個室を設けているか否かにかかわらず、みなし労働時間制の適用要件に該当すれば、当該制度が適用されるものである。（平 16.3.5 基発 0305001、平 20.7.28 基発 0728002）。

3) テレワークガイドラインに定められている「事業場外みなし労働時間制」の取扱い

ガイドライン（2021 年版）によれば、「事業場外みなし労働時間制は、労働者が事業場外で業務に従事した場合において、労働時間を算定することが困難なときに適用される制度であり、使用者の具体的な指揮監督が及ばない事業場外で業務に従事することとなる場合に活用できる制度である。テレワークにおいて一定程度自由な働き方をする労働者にとって、柔軟にテレワークを行うことが可能となる。

テレワークにおいて、次の①②をいずれも満たす場合には、制度を適用することができる。

① 情報通信機器が、使用者の指示により常時通信可能な状態におくこととされていないこと

この解釈については、以下の場合については、いずれも①を満たすと認められ、情報通信機器を労働者が所持していることのみをもって、制度が適用されないことはない。

- ・勤務時間中に、労働者が自分の意思で通信回線自体を切断することができる場合
- ・勤務時間中は通信回線自体の切断はできず、使用者の指示は情報通信機器を用いて行われるが、労働者が情報通信機器から自分の意思で離れることができ、応答のタイミングを労働者が判断することができる場合
- ・会社支給の携帯電話等を所持していても、その応答を行うか否か、又は折り返しのタイミングについて労働者において判断できる場合

② 随時使用者の具体的な指示に基づいて業務を行っていないこと

以下の場合については②を満たすと認められる。

- ・使用者の指示が、業務の目的、目標、期限等の基本的事項にとどまり、一日のスケジュール（作業内容とそれを行う時間等）をあらかじめ決めるなど作業量や作業の時期、方法等を具体的に特定するものではない場合」とされている。

このようなガイドラインの取扱いについて「情報通信技術の発達により、記述的な面にのみ着目すれば、テレワークにおいて労働時間の算定が困難な場面はほとんど想定されないこととなりそうである。これに対し一連の行政通達・ガイドラインは、厳格な労働時間管理を行わず、労働時間の配分に係る裁量を労働者に委ねているケースについて「算定困難性」を認めようとするものであるといえる。こうした行政解釈・ガイドラインの解釈については、常時通信可能な状態に置いたかどうか（即応義務を課したかどうか）という使用者側でコントロール可能な事情によって、みなし制の適応が決まるもので、適切ではないという批判もなされている。」（石崎前掲 15 頁）との指摘がある。

相続のお手続きで お悩みの方は 武蔵野銀行へ!

相続に関する
気になる疑問を
動画でチェック!



そんなに資産も
多くないから
遺言なんて
必要ない?



相続の
手続きって
どんなものが
あるんだろ?



※遺言信託・遺産整理業務には手数料がかかります。詳しくは最寄りの店舗、各サービスパンフレットをご参照ください。

お問い合わせ先 武蔵野銀行個人コンサルティング部 TEL 048-641-6111

More For You
もっと、前・暮らし・笑顔のために

武蔵野銀行

経営者の皆さまの“こまりごと”の解決を 私たちが全力でサポートします!

- ビジネス創出の機会をご提供します。
- 経営のフォローアップに努めます。
- お客様のニーズを共に考えます。
- 各種ソリューションをご提供します。



お客様の“こまりごと”
を解決するお手伝い!

ビジネスプラザさいたま



埼玉りそな銀行 Business Plaza
RESONA ビジネスプラザさいたま

「企業」と「人材」を結ぶエキスパート!! ジョブ産雇

1987年(昭和62年)「失業なき労働移動」を支援する公的機関として設立。以来30余年に亘り、25万人におよぶ再就職・出向支援など労働移動をサポート!!

<p>人材の 確保</p> <p>従業員の 再就職</p> <p>→ どちらも ←</p> <p>無料でサポート</p>	<p>全国の 約500人の コンサルタントが サポート</p> <p>雇用を守る出向支援プログラム 「在籍型出向制度」</p>	<p>無料</p> <p>65歳以降も働き続けたい方 68歳以降も働ける職場</p> <p>キャリア人材バンク</p>	<p>応援します、 頑張るあなたの 新職場!!</p>
---	---	---	-------------------------------------

きっとみつける
いい人・いい仕事

公益財団法人 産業雇用安定センター
〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町3-13-1 住友生命大宮第2ビル2F

● 電話番号 048-642-1121
● FAX番号 048-646-4915

埼玉事務所

無料職業紹介事業許可番号
13-ム-030002

皆様の職場を支える新たなパワーとして シルバー人材センターを活用してみませんか!

求人・人手不足に
お悩みの事業主様へ

3つのメリット

- ① 知識や経験**
豊富な知識や経験、技能を持つ会員が、多様な仕事に対応します。
- ② 身近で便利**
県内59箇所に設置。全県をカバーしています。早朝や夕方、土日、短時間の仕事などにも対応します。
- ③ 安心で丁寧**
公益的、公共的な団体なので安心です。丁寧、実直に仕事に取り組みます。

主な業務内容

事務分野

- 一般事務 ● 経理事務
- 毛筆筆耕、宛名書き

屋内外の一般作業

- 清掃
- 梱包、包装、検品、仕分け
- 除草

技能を活かす分野

- 植木剪定
- 和洋裁

サービス分野

- 保育、介護補助
- 品出し、接客
- 営業

● シルバー人材センターとは

「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき設立された公益法人です。地方公共団体をはじめ、企業や家庭などから高齢者にふさわしい仕事を引き受け、シルバー人材センターの会員に提供しています。



埼玉県シルバー連合 検索



公益財団法人 いきいき埼玉
(埼玉県シルバー人材センター連合) 埼玉県県民活動総合センター内

〒362-0812 伊奈町内宿6-26

お問い合わせは所在市町村の
シルバー人材センターへ

TEL 048-728-7841 FAX 048-728-2130

ワンポイント労働法

中小企業でも「ビジネスと人権」についての理解を

弁護士 安西 愈

最近「ビジネスと人権」ということがよく言われており、日本経団連も「人権尊重経営の推進」を掲げ、「ビジネスと人権」に関する取り組みを公表し活発化している。

「ビジネスと人権」という問題は国連の「指導原則」による国家、多国籍企業の問題であり、児童労働や強制労働など後進国の問題で日本のような先進国や国内産業中心の中小企業にとっては関係のない問題ととらえて無関心の企業が多い。しかしながら、わが国においても「ビジネスと人権」の問題は身近の問題になってきている。

たとえば、最近のあるテレビ局における有名芸能人のセクハラ事件についてテレビ局の人権侵害の企業責任が問題となり、国内の有力企業の相当数がテレビの広告を取りやめたことからテレビ局は経済的にも大打撃を受けたことが広く報ぜられた。この事案は企業活動に関連する明らかな人権侵害であり、本件テレビ局と何らかの取引関係のある企業側に「ビジネスと人権」として求められる人権デュー・ディリジェンス（企業活動に関係する人権侵害の負の影響の調査、確認、対処等）において、人権侵害問題を知りながら宣伝広告費を支払い続けることは、企業活動としての重大な人権侵害の行為を行ったテレビ局への経済的助長行為の継続とみられることから、広告を一斉に取りやめる行動をとったものと考えられる。すなわち、取引における人権侵害を行っている会社との関係において当該人権侵害行為を助長しているとの責任が問われる可能性があるからで

ある。

すなわち、国連では、20世紀において企業活動による人権の侵害が児童労働、強制労働、現代的奴隷労働、人種差別、先住民の侵害といった不当な人権侵害となって大きな問題になったことから、2011年に国連人権理事会で「ビジネスと人権に関する指導原則」が全会一致で支持され大きく前進し、米国や欧州を中心に法制化され、日本政府では諸外国に比して対応が遅れていたが2020年に「ビジネスと人権」に関する行動計画を策定し、以降この問題に取り組んでいる。

国連の条約等の名宛人は通常は国家とされているが、この「人権指導原則」は、国家のみならず、「企業の人権尊重」が明記され、企業もその遵守実行の名宛人とされていることである。そして守るべき人権として企業活動に関連する26の主要な人権リスクの類型が発表され、その中には過剰不当な長時間労働や各種ハラスメント等も示されている。

そして、企業は、自社が直接関係している人権侵害のみならず、自社を含むサプライチェーン全体等取引関係先に対して人権への負の影響に対応していくことが求められている。従って、冒頭に述べた、テレビ局への広告の継続は人権侵害への負の影響を助長しているとみられるので、企業の対応すべき責任としてその防止、軽減措置として人権デュー・ディリジェンスの実施として取引停止の実行をしたものである。

告 知 版

》 4 地区協議会共催企画 現地視察会

～(株)ダイヤモンドマーク本社工場と SAITEC 視察～

日時 令和 8 年 2 月 12 日(木) 14:00 ～ 16:30
会場 (株)ダイヤモンドマーク、SAITEC

》 令和 8 年度定時総会

日時 令和 8 年 5 月 13 日(水)
会場 バレスホテル大宮
講師 ヨーヨーパフォーマー BLACK 氏
「日本人初の TED 出演に至る挑戦と、世界で学んだプレゼンテーション術（仮題）」

会 員 の 動 き

新入会員のご案内

(株)梅林堂

代表取締役 栗原 良太
熊谷市本石 1 丁目 304 番地
TEL 048-521-6180
FAX 048-523-5766
(資) 1,600 万円
(従) 380 名
和洋菓子製造販売

増木工業(株)

代表取締役 加藤 純一
新座市野火止 3-10-7
TEL 048-477-2446
FAX 048-480-3731
(資) 1 億円
(従) 25 名
総合建設業

(株)北斗不動産ホールディングス

代表取締役会長 上田 福三
所沢市西所沢 2-1-12 第 2 北斗ビル
TEL 04-2925-9495
FAX 04-2921-3225
(資) 7,000 万円
(従) 27 名
不動産販売、仲介、不動産賃貸

(株)平成エンタープライズ

代表取締役 田倉 貴弥
志木市本町 5-22-26 HEG ビル 4F
TEL 048-487-7387
FAX 048-487-7406
(資) 7,600 万円
(従) 80 名
バス事業・旅行業

社名変更

(株)マミーマートホールディングス
(旧 (株)マミーマート)

代表者変更

(株)ラスコ

取締役 藤保 朋弘
(旧 代表取締役 堀野 賢一)

(株)ウェルディングアロイズ・ジャパン

代表取締役 長谷川 勝竜
(旧 代表取締役 福本 宏昭)

大栄不動産(株)

代表取締役社長 小林 義信
(旧 代表取締役社長 石村 等)

川口内燃機鋳造(株)

代表取締役社長 伊東 裕寿
(旧 取締役社長 金井 芳雄)

(株)レーベンハウス

代表取締役 北西 琢磨
(旧 代表取締役 北西 功)

住所変更（新住所）

日本自動車管理(株)
さいたま市北区日進町 1-190

(株)エイチワン

さいたま市大宮区桜木町一丁目 195-1
大宮ソラミチ KOZ11 階

住所変更および電話・FAX 変更

センコー(株) 埼玉主管支店
さいたま市緑区大門 280-1
TEL 048-764-8191
FAX 048-764-8192